



季節外れの花が咲く丘

【難易度】：5

【期限】：平日5日（月曜～金曜）、1日1シーン。

【雰囲気】：さびれた団地×花×不思議な事件

【トーン】：PG12

【状況】

目標：季節外れの花が見られる理由についてまとめる。

週明けの月曜日、〔生徒〕たちは発表の題材が見つからず困っていた。

そんな時、学校正門そばの花壇で、2年生の美術部員、向井川 むかいがわ はる 春から「大階段の上の一带は丘になっていて、緑ヶ丘と呼ばれているんだけど、そこで季節外れの花をよく見ることがあるんだよね。あれはちょっと不思議かな」という話を教えてもらう。

緑ヶ丘は白樺ホールや古い団地がある地域だ。曖昧な話ではあったが、他に発表のテーマのあても見つからないということで、〔生徒〕たちは「季節外れの花が咲く理由」について調べてみることにする。

【今いる場所】

学校正門そばの花壇。

【問い】

今は何月頃か、今咲いている花は何か、これから咲く花は何か。

♥ 【場所】

A：緑ヶ丘団地の中にある公園

丘の上には、何十年も前に造られた団地が建っている。その一角に位置する公園は、かつては子供たちの笑い声で溢れ、地域のコミュニティの中心地だった。しかし、今ではその賑わいも影を潜め、静寂が支配する場所となっている。

【演出】：ここは静かなので遠くの音や声がかすかに聞こえることがある。何か気になる音や声は聞こえてくるだろうか。

2：遊歩道

緑ヶ丘団地の周囲をぐるっと散歩できる形で造られた遊歩道。歩きやすいように路面は平らに整備されていて、小さな子供から老人まで、誰もが安心して歩けるよう配慮されている。道の両側には、季節の花々や緑豊かな樹木が植えられていて、楽しんで散歩できるようになっている。

【演出】：季節外れの花は咲いているだろうか。花の周囲や遊歩道に気になることはあるだろうか。

3：大きなため池

緑ヶ丘にあるため池。落ちたら上がってこれなさそう。一見すると穏やかな水面をしているが、暗く深い水の中に何が潜んでいるのか見当もつかない。池の周りには様々な花が咲いている。

【演出】：〔生徒〕の誰かがため池や水場に関することを思い出す。思い出すのは全員でも構わない。話が盛り上がれば、みなが自分の思い出を語ることもあるだろう。

4：用水路

ため池から伸びてきている、細い用水路。水路は周囲の風景と一体となっていて、水が静かに流れている。水は透明で覗き込めば、水路の底まで見通すことができる。水路の両側には草花が生い茂っている。

【演出】：何か興味深いものが目にとまる。それは何か。水路を流れてくるものだろうか、鳥や虫などの生き物だろうか、それとも何かの花だろうか。

5：ぽっかりと空いた空き地

この空き地は、まるで時間が止まったかのように、ぽっかりと空いている。周囲には団地や住宅が立ち並んでいる中で、この空き地は手つかずのまま何年も残されているようだ。草が生い茂り、季節ごとに異なる野草や花が顔を出している。よく見てみると、かつて何かが建っていた痕跡がわずかに残っている。

【演出】：家の土台の基礎や、花壇の一部であつたろう煉瓦など、過去にここにあったものの痕跡は何だろうか。また、季節外れの花は咲いているだろうか。

6：庭のある洋館

丘の上にある古い洋館。今、誰が住んでいるかもよくわからない。入り口から敷地の方を見ると、広い庭園が見える。あまり手入れはされていないようだが、たまにハッとするとほど美しい花が裂いているのを目にすることがある。

【演出】：庭園はどのような様子か？ 人影はあるだろうか？

7：緑ヶ丘図書館

丘の上にある小さな公立図書館。団地の子どもたちがこぞって利用したからだろうか、何十年か前に出た本がとても多い。絵本コーナーにもたくさんの絵本が置かれている。

【演出】：ここで懐かしい本を見つける。それはどんな本か？ それは【手がかり】ではないかもしれない。しかし、それはそれとして懐かしい本である。

8：永沢生花店

緑ヶ丘の一角にある花屋。店主は永沢ながさわ響ひびきという30代の女性。ただ彼女は忙しいため、店にいるのは店員かもしれない。店先には、鮮やかな花束や鉢植えが並び、甘い花の香りが漂っている。店内には、季節の花を使ったアレンジメントが飾られ、訪れる人々に四季の移ろいを感じさせる。また自家製のクッキーや店主が個人輸入した珍しい紅茶なども販売されている。

【演出】：今店内はどんな様子か？ 混んでいるだろうか、店員が花を寄せているところだろうか、空いているだろうか。

9：風の丘公園キャンプ場

芝生が気持ちいいキャンプ場。テントを張って宿泊したり、日帰りでバーベキューをしたりすることができる。炊事場やあずまやなどの設備があるので、あまり物をもってこなくても楽しめる。

【演出】：あなた方が向かうのはキャンプ場のどこだろうか、芝生の上で寝転ぶのか、炊事場を見に行くのか、それともあずまやにいる人に話でも聞きに行くのだろうか。

10：緑ヶ丘小学校

緑ヶ丘団地から歩いて15分ほどのところにある小学校。近年、生徒数が減ってきていて、空き教室が増えるようになってきた。〔生徒〕の中に卒業生がいる場合、中に入ることができる（卒業生かどうかは今決めてよい）。

【演出】：〔生徒〕の中にこの卒業生あるいは、この小学校に来たことがある者はいるか？ いるなら小学校時代に何か思い出はあるか？

◆ 【現象】

A

- » 子どもの笑い声が聞こえる
- » 植物が一晩で急激に成長する。近くの住人も驚いている
- » 食べ物の味がとても甘い

2

- » 方向感覚を失って迷子になる。同じところをぐるぐる回っている
- » 空を謎の光が移動している
- » 食べ物の味がとてもしょっぱい

3

- » 【脇役係り】は、家の鍵など大事なものをなくす。今の【場所】を再訪し《挑戦》成功で見つかる
- » 【手がかり係り】は、突風でよろめく。《挑戦》に失敗すると、転んだり水に落ちたりする
- » 誰もいないブランコが揺れている

4

- » 近くの明かりが不規則に点滅する
- » 季節外れの花が満開に咲いている
- » 水面に映る自分の姿が別の動きをしているのを見る

5

- » 【場所係り】の名前を呼ぶ声が遠くから聞こえてくる
- » 遠くで小さな光が舞い踊っている
- » 気がつくと、つぼみだったはずの花が咲いている

6

- » 花が突然咲いたところを子どものころに見た記憶がよみがえる
- » 写真に浮かぶ光の玉が写っている
- » 持ち物の中に、未知の言語で書かれたメモが入っている

7

- » 子ども時代に名前のわからない友達と遊んだ記憶がよみがえる
- » 気がつくと、咲いていたはずの花が枯れている
- » ありえないほどの幸運が起きる

8

- » スマホをなくす。この【場所】に再訪し《挑戦》成功で見つかる
- » 家具や机が普通あり得ない置き方で積みあがっている
- » 火の火力が急に大きくなる

9

- » 輪を描くように咲いた花
- » 靴ひもがほどけていて転びかける
- » 部屋の隅、物陰から小さな話し声が聞こえる。近づくと、小さな足音がして、何も聞こえなくなる

10

- » 不意の突風でトラブルが起こる
- » 空に見たことのない星座が見える。よく見ようとすると消えている
- » 輪を描くように生えたキノコ

♣ 【手がかり】

A

- » 花が急速に咲く動画
- » 携帯用の調味料
- » 何かを見て驚いている人

2

- » 妖精の輪についてのウェブページ
- » いたづらをされて怒っている人
- » 季節外れの花を見たことがあるという証言

3

- » 『温室で早咲きの花を育てよう』という題の本
- » 野外で録音したと思われる音声データ
- » 土の中に埋められていた箱

4

- » 『大解説！ 謎の円盤UFO』という題の本
- » 団地ができる前の緑ヶ丘を写した古い写真
- » 園芸用の道具

5

- » キャンプ場で撮られた、謎の光の動画
- » 小学校の花壇の成長記録
- » 緑ヶ丘周辺の地図

6

- » カメラに詳しいユーチューバーの動画
- » 落ちている誰かのスマホ
- » 周辺の抜け道が列挙してあるメモ

7

- » 「それはUFO？ それとも見間違い？」という、雑誌の特集記事
- » 古い石碑
- » 花屋の包み紙

8

- » 普通ならあと2週間くらいしないと咲かない花が咲いている
- » 色あせた人探しのピラ
- » 小学校の文集に載っている奇妙な話

9

- » 洋館と花の咲いた庭園を写した古い写真の束
- » 過去の新聞記事の切り抜き
- » 音量をかなり上げないと聞こえないくらい小さな喋り声が入っている音声データ

10

- » 片方だけ落ちている子ども用の靴
- » 建設中の団地の写真
- » 誰かの家の鍵

♠ 【脇役】

A: 向井川 春

女性。同じ中学校の2年生。美術部。緑ヶ丘で季節外れの花を見ることが度々あり、それを不思議に思っている。趣味は押し花で栞を作ること。早寝早起きがモットーなので、夜に会った時は眠たそうかもしれない。

「不思議なことですか？ ああ、緑ヶ丘のあたりはちよつと不思議ですね」

「朝五時から起きてますから。おかげで、夜はすぐ眠くなっちゃうんですけどね」

2: 山本 名生久

男性。20代後半。会社員。キャンプ場好き。のんびりと肉を焼くことが好きなので、よくキャンプ場に行っている。キャンプ場で不思議な光を見たことがある。

「肉を焼くのが趣味になるのか、だって？ 君は本当の意味で肉を焼いたことが無いね？」

「焚火は良いよ、心が落ち着くから。仕事とは正反対なものだよ……」

3: 柳 智子

女性。20代中盤。大学院生。専攻は植物学。季節外れの花の現象に興味を持ち、よく大階段をあがって、緑ヶ丘に散歩に来る。細かい事務作業が嫌いなので、そういうことをしたあと、気分転換のためによく散歩をしている。

「奇遇だね、私も気になっているんだ」

「いや、今書いている論文とは関係ないよ。でも、いろんなことに疑問を持つことは損じゃないはずさ」

4: 永沢 響

女性。30代前半。緑ヶ丘で生花店を営んでいる。訪れる人々にちょっとした贅沢なひとときを提供するというのがモットーで、花以外にも、手作りクッキーや、個人輸入した紅茶も販売している。緑ヶ丘団地やその近辺でフラワーアレンジメント講習会も行っているので、移動途中の彼女に会うこともあるかもしれない。

「確かにちよつと季節外れですけど、工夫すれば咲かないわけではありません」

「そのアレンジメントの鉢はいかがですか？ 今ならカモミルティとクッキーのおまけつきですよ」

5: 吉田 輝和

男性。40代中盤。緑ヶ丘小学校の教員。まじめな性格で、[生徒]が《夜遊び》をしていると注意してくるだろう。趣味はいろいろな国の古典文学を読むこと、あとダンス。仕事の上でダンスをする必要があったので練習したところ、性に合っていたのかかなり上達した。

「このあたりは街灯が少ないんだ。早く帰るように」
「そういう伝説は確かにあるな。気になるなら緑ヶ丘図書館にでも行ってみるといい」

6: 田中 恵

たなか めぐみ

女性。30代前半。主婦。地域の安全に強い関心を持ち、改善のため役所に陳情を行うなど、積極的に活動している。緑ヶ丘団地やその周辺施設の老朽化や、ため池の危険性について気にしている。

「ここで育った子供たちが、大人になって仕事場の近くに引っ越していったからです」

「地域の安全を守るため、改善を求める声を上げていきましょう！」

7: 岡本 善司

おかもと ぜんじ

男性。60代後半。団地に住む元郵便配達員。穏やかで話し好き。配達中に一度、見たこともない場所に迷い込んだ経験がある。バイクが好きで、今もカブに乗ってたまに小旅行を楽しんでいる。

「このへんの地形は全て頭に入っているよ、郵便配達をしていたからね」

「あれは不思議な体験だった…… 冬の終わりだったのに、そこでは花が咲いていたんだ」

8: ウィリアム・マクブライト

男性。20代後半。イギリス人で私立高校のALT。日本語はうまく、問題なく話せる。日本の伝統的な祭りの活気とコミュニティの結びつきに特に興味を持っている。好きな日本料理はお好み焼き。

「興味深いです。それはまるで私の国のフェアリーリングです」

「違います。それはお好み焼きとパンケーキくらい違います」

9: 五百瀬 隆

いおせ たかし

男性。20代後半。緑ヶ丘図書館の司書。手先が器用で、本の修復がうまい。本人も修復に面白さを感じ、もっと勉強してみたといえるようになってきた。

「妖精伝承の本ですか？ それならあちらの棚ですね。いまご案内いたします」

「使い込まれた絵本には、新品とはまた違った魅力があると思うんですよね」

10: たぶん近所の小学生

たぶん近所に住んでいる小学生。たぶん高学年。名札はないので名前はわからない。話してみるとちょっと昔の番組の話とかをする。たぶん動画か何かで知ったんだろう。しつもんをするといところにつれていってくれる。とつぜんすがたをあらわしたり、きゅうにいなくなったりする。

「あ、それ、してる！ こつだよ！」

「わかった！ じゃあ、ついてきて！ こつだよ！」